

文部省選定

社会教育映画



明日に向かって翔べ

——少年期のスポーツ活動——

16ミリ・カラー30分 定価＝175,000円

企画＝(財)日本体育協会・日本スポーツ少年団

製作＝(株)桜映画社

監修＝萩原武久 筑波大学助教授
日本スポーツ少年団指導育成部会プロジェクト員

●——すいせんのことば

全国視聴覚教育連盟事務局長 関口 勇

今日のような受験戦争、家庭内暴力、登校拒否、非行問題と少年をとりまく環境は余りにも問題が多い。こうした世相の中にあって少年の健全育成は大人の大きな責任である。

その一つにスポーツがとりあげられ、スポーツ少年団体がいろいろと誕生し、地域の大人たちが夫々に工夫をこらして、少年のスポーツを通しての健全育成に力をつくしている事は、誠に喜ばしいことである。

しかし、最近スポーツ＝勝つこと、そのためのハード・トレーニングと大人主導の傾向が現われ、広く地域の少年を対象とし、少年の健全な人間形成に資する本来の目標からずれ、その弊害が問題視されつつある。

映画はこうした情勢にかんがみ、少年の発育発達に即した望ましいスポーツ活動のあり方とその指導事例を紹介しており、これから21世紀に向けてはばたく少年の人間形成の基本を培うものとして、大いに活用されんことを希望している。

●——監修のことば

萩原武久

スポーツを行なっている時の子どもたちの顔、顔、顔……。何ものにもかえがたい夢と純粋な心を動きの中から垣間見る事ができます。

ところが最近では、子どもたちを育てるというよりも、ややもすると勝負のみにこだわる活動が増え、子どものスポーツの本質が忘れられる傾向にあるようです。子どもは大人を小型にしたものではないのです。子どもには、子どもに適したスポーツ活動が求められなければなりません。

少年期のスポーツ活動は、生涯スポーツへのきっかけであり、本番(大人)に備えての舞台稽古の時期なのです。

子どもたちを取り巻く諸々の環境は、増々複雑多岐になるでしょうが、未来にはばたく少年たちのために、スポーツはその「礎」となるべきではないでしょうか。

指導者も、子をもつ親も、学校の先生も、「子どもにとってスポーツとは何か」を、この映画をみて、もう一度考えていただきたいと願っています。

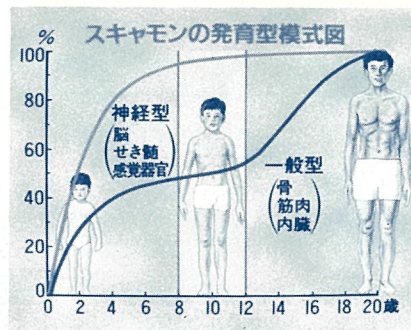
●製作

株式
会社

桜映画社

〒160 東京都新宿区西新宿1-22-1
スタンダードビル TEL03(342)5768

●配給



●——利用方法

- 小集団学習～青年・婦人・成人による学級講座の学習課題「少年の健全育成とスポーツ」「スポーツ少年団育成のあり方とその運営」等の教材。
- 集会学習～社会体育指導者、スポーツ少年団リーダー、町内会青少年部有志指導者研修会や講演会等に上映して、地域スポーツ少年団育成をめざす運動展開に役立てる。
- 不特定多数映画会～公民館や公共施設における一般映画会に上映して、スポーツ少年団の必要性和特異性を理解し、少年の健康で明るく心豊かな人間形成に協力の雰囲気づくりに活用する。

●——話し合いの要点

- (1) スポーツ＝勝つ＝ハード・トレーニングという大人の感覚で、少年スポーツのあり方を律してよいだろうか。なぜそういえるのだろうか。
- (2) スキヤモンの発育型模式図を通してどんな事に気づいたか。
- (3) 子どもの身体的成長の特徴はどうなっているか。
- (4) 過度のトレーニングや片寄った体の使い方は子どもの骨や関節に害ありというのはなぜか。どんな例があるか。
- (5) 少年スポーツを健全に実施していくのに、どんな配慮がなされねばならないか。
- (6) 茨城県桜村並木サッカー・スポーツ少年団について—①指導上の特徴は何か。②反省の機会をもっているがどんな意味があるのか。③指導者の立場から、練習試合の意義を考えてみよう。④少年にとってスポーツはどうあるべきかまとめよう。
- (7) 所沢バレーボールクラブ・スポーツ少年団について—①準備運動の実際をみて何を感じるか。②活動の趣旨、特徴をあげてみよう。③指導者はアイデアマンでなくてはいいがなぜだろう？④スポーツ少年団員たることが人間形成にどんなプラスをもたらしているか。⑤佐藤さんのスポーツ少年団運営についての意見についてのあなたの考えは何か？
- (8) 館山市神戸剣道スポーツ少年団について—①特徴というとか。どんな点からそうなるか。②指導者のあり方についてどう思うか。
- (9) 「つらい事や泣いた事もあるが、でもスポーツは楽しい」とはどんな状況からでる意見か。
- (10) 三つの事例に共通する点は何か。それはスポーツ少年団運営にとってどんな意味をもつか。あわせて指導者の心構えを確認しよう。
- (11) 参加させている子の親、これから参加させようとする親に、しっかりわかって欲しい事は何か。

●——映画の内容

- 子どものスポーツは本来楽しい筈なのに、大人主導型になって、勝つためのハードな練習が強いられ、子どもの発育や発達に好ましくない傾向があるといわれる。
- スキヤモンの発育型模式図による解説でみると、少年期の体は大人とは機能、働きが大きく違うことがわかる。子どもは成長過程にあるので、誤ったトレーニング、片寄った体の使い方は、子どもの骨や関節に害がある。例えば野球のピッチャーとして毎日過度の投球をすると、「関節ネズミ」の状態になって、一生肘が完全に伸びなくなる。又骨と筋肉の成長がアンバランスになって、関節の軟骨の一部が骨片に変わってしまう。度を越したトレーニングは関節障害や疲労骨折を起こす。子どもには多くの種目を満遍なく行なうのがよい。
- 茨城県桜村並木サッカー・スポーツ少年団～年齢と能力に応じた動きを団活動に取り入れ、指導者も加わってのボール当てゲームなど楽しいプログラムが行なわれる。楽しく動くなかで機敏性や複雑な動きを身につけるようにする。1人から2人さらには3人で単純から複雑への繰返しゲームに発展する。そうした中に各自の反省がなされる。練習試合は成果の発表と共に個性発見の場であり、スポーツの基本点検の機会でもある。
- 埼玉県所沢バレーボールクラブ・スポーツ少年団～練習の始まる前に高学年は自分達発案の運動を、低学年には動きたくなるようなプログラムを用意する。母親にはファミリースポーツに参加してもらい理解を深める。多彩な指導者たちはよく話し合う。「勝つ事は大事だが途中で子どもが抜けてしまっは意味がない。心身の育成第一」と。
- 千葉県館山市の神戸剣道スポーツ少年団～団結前から18年、家業のかたわら指導に当たってきた黒川さんは教え子が指導員になってきても“さん”呼びにして気安くやれるようになっているという。大先輩の上野さんは「歳をとっても皆とやっていきたい。子どもたちもスポーツの楽しさを体でわかってもらい、生涯続けて欲しい」といっている。月一度の野外活動は親子総がかりの楽しい風景だ。
- スポーツには苦しみや、つらい事もあるが楽しい。この経験が大切である。生涯続けていける芽を育てるスポーツ少年団でありたい。

●——製作スタッフ

製作＝村山和雄 撮影＝村山和雄／田中宣勝
 脚本＝福間順子 照明＝浅見良二
 川田一郎 音楽＝愛場俊彦
 演出＝川田一郎 解説＝武田 広